

# 宮ノ前第 2 遺跡（高千穂町）出土の弥生時代から古墳時代の玉製品

守部 丘大

（宮崎県埋蔵文化財センター）

## 1 はじめに

宮崎県埋蔵文化財センターの収蔵資料のなかには、様々な事情により発掘調査報告書では未掲載、または簡単な文章や写真での記載にとどまり、ほとんど日の目を見ることのない資料も少なくない。これらの中には、宮崎県域の歴史や文化等を知るうえで重要な資料も多く含まれている。そこで、今後の活用に向けて、そうした資料等の図化や報告が重要であると考えます。

今回報告する資料は、宮ノ前第 2 遺跡から出土した弥生時代から古墳時代の玉製品である。宮ノ前第 2 遺跡は、高千穂町大字三田井字宮ノ前に所在し（図 1）、国道 218 号高千穂バイパスの建設に伴い、平成元年 4 月から平成 2 年 3 月にかけて発掘調査が実施された。縄文時代後期の土器・石器が出土したほか、弥生時代後期初頭～古墳時代初頭の竪穴建物跡が 8 軒、古墳時代後期の竪穴建物跡が 7 軒検出されている（宮崎県教育委員会 1993・長津 2021）。報告書では、弥生時代から古墳時代の玉製品として、1・7 号住居出土の玉製品の法量が文章中（120・128 頁）ならびに「竪穴住居計測表」（137 頁）に、また、6・8・11・12・15 号住居出土の玉製品が「竪穴住居計測表」（137 頁）に文章のみで記載されている。なお、11 号住居については「竪穴住居の東壁の中央で 3 点の緑色ガラス平玉と 4 点の青色ガラス白玉が 1ヶ所に集中して出土した。大型の青色の 1 点は断面が不定形で、長さ 0.4cm、幅 0.4cm、厚さ 0.3cm、孔径 0.1cm である。残りの 6 点は断面がほぼ円形で、長さ 0.2～0.3cm、幅 0.2～0.3cm、厚さ 0.15～0.2cm である。」（133 頁）と本文に記載があるが、現在、当センターの収蔵資料中に該当する玉はなく、所在確認中である。また、今回報告の玉製品のうち、5・7・8・11 の 4 点については蛍光 X 線分析が実施され、8・11 が高アルミナソーダ石灰ガラス、5・7 がソーダ石灰ガラスと判明している（柳瀬ほか 2014）。



図 1 宮ノ前第 2 遺跡位置図

## 2 資料紹介

玉製品 11 点のうち、ここでは 9 点を図化し、その特徴を紹介する（写真 1・図 2・表 1）。残り 2 点は図化に耐えない破片資料のため、観察表でのみ取り上げる（表 1）。1・2 は弥生時代後期初頭～前葉の竪穴建物跡から出土した。1 は天河石製の平玉である。一見すると翡翠製のようなが、緑がかった淡青色をベースに、白色部分が霜降り状に入る特徴から天河石製と判断した。表面はやや歪な部分があり、裏面は平坦に整形される。2 は頁岩製の平玉である。中央に両面からの大きな穿孔をもつ。3～6 は古墳時代後期の竪穴建物跡から出土した。3 は碧玉製の勾玉で、頭部が欠損している。4～6 はガラス製の小玉である。表面・裏面ともに平坦である。5 は 3 分の 2 ほどが



写真 1 宮ノ前第 2 遺跡出土の玉製品写真

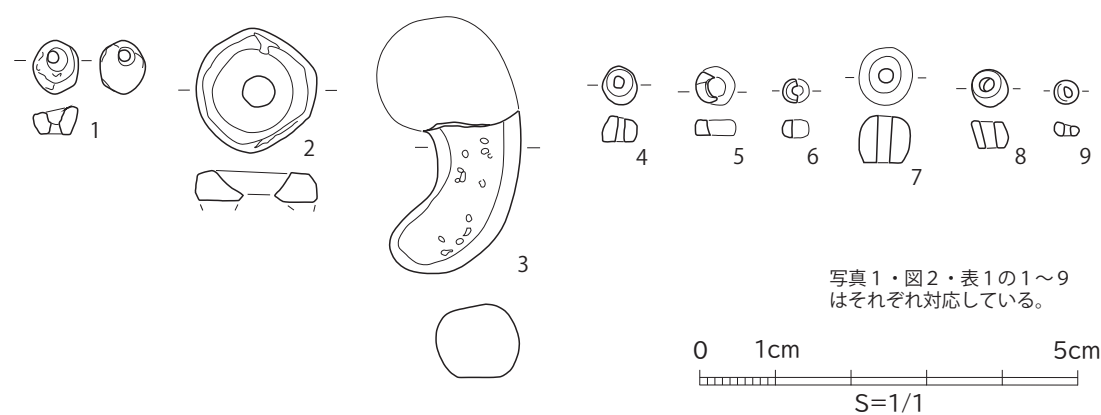


図 2 宮ノ前第 2 遺跡出土の弥生時代から古墳時代の玉製品実測図

掲載 番号	遺物登録 番号	材質・色等	器種	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	孔径 (mm)	重量 (g)	出土 遺構	出土遺構の時期
1	970962	天河石（アマゾナイト）	平玉	7.0	6.0	3.5	3.0	0.2	SA12	弥生後期初頭～前葉
2	970942	頁岩	平玉	17.0	16.0	4.0	4.0	1.2	SA10	弥生後期初頭～前葉
3	971180	碧玉	勾玉	不明	12.0	10.0	不明	4.4	SA1	古墳後期
4	971403	ガラス（透明青色）	小玉	5.0	4.5	3.5	1.5	0.1	SA15	古墳後期
5	971314	ガラス（透明紺色）	小玉	不明	2.5	2.0	不明	0.0	SA7	古墳後期
6	971337	ガラス（透明青色）	小玉	不明	2.0	2.5	不明	0.0	SA8	古墳後期
7	971516	ガラス（透明紺色）	丸玉	7.5	7.0	6.0	2.0	0.5	不明	不明
8	971517	ガラス（透明青色）	小玉	5.0	5.0	3.5	2.0	0.1	不明	不明
9	971518	ガラス（不透明青色）	小玉	3.5	3.5	2.5	1.0	0.0	不明	不明
10	971338	クロム白雲母	玉（器種不明）	-	-	-	-	-	SA8	古墳後期
11	971362	ガラス（透明青色）	小玉か	-	-	-	-	-	SA11	古墳後期

※最大長 5mm 以下を小玉、それ以上を丸玉とした SA: 竪穴建物跡  
※石製玉製品の材質は肉眼同定による。将来的に理化学的な分析の実施が望ましい。  
※ 8・11: 高アルミナソーダ石灰ガラス、5・7: ソーダ石灰ガラス（柳瀬ほか 2014）

表 1 宮ノ前第 2 遺跡出土の弥生時代から古墳時代の玉製品観察表

欠損する。裏面は平らである。6 は、半分ほどが欠損する。7 ～ 9 は出土位置の詳細が不明のものである。7 はガラス製丸玉である。表面・裏面とも平坦である。8 はガラス製小玉である。表面・裏面とも平坦である。9 はガラス製小玉である。他のガラス製玉とは色調が異なり、透明度も低い。

3 宮ノ前第 2 遺跡出土玉製品の位置付け

今回報告した宮ノ前第 2 遺跡出土の弥生時代から古墳時代の玉製品について、いくつかの検討を加えて結びとしたい。

まず、1 の天河石を用いた玉製品の事例を追加できた点は大きな成果である。表 2 に挙げたように、宮崎県域では天河石を用いた玉製品が 3 例知られている<sup>(1)</sup>。平底第 2 遺跡例は、その出土遺構の年代や玉の形態的特徴から、朝鮮半島や九州北部における天河石製玉製品の流通等の延長線上で理解でき、一方で、蓮ヶ池横穴墓群例は、古墳時代後期から終末期における「伝世・再利用」（吉田・比佐 2021 他）と位置づけが可能である。今回報告の宮ノ前第 2 遺跡例は、その出土した遺構の年代が弥生時代後期初頭から前葉と、平底第 2 遺跡と同じ文脈と見るにはやや年代が新しく、遺構の時期よりも年代的に遡る資料が埋土中へ混入した、あるいは伝世品等という複数の可能性を踏まえておく必要がある。

2 のような在地石材を用いた玉製品の存在も注目される。2 の年代が出土遺構と同じ弥生時代後期初頭から前葉であれば、年代的にも地理的にも近い古城遺跡（高千穂町）の弥生時代中期末から後期初頭の 24 号竪穴建物跡出土品に、近似する石材製の勾玉があり（宮崎県埋蔵文化財センター 2003）、両者とも石材や形態から広域流通品ではなく在地生産品であったと推定される。

3～9 は、出土遺構の年代と同じ古墳時代後期の玉製品であろう。このうち、3 の碧玉製勾玉については、宮崎県域での出土例が少ないものであり、碧玉製以外のものも含め、勾玉が墳墓からではなく集落から出土する例自体が稀な状況がある<sup>(2)</sup>。こういった観点から、宮ノ前第 2 遺跡において竪穴建物跡（集落）から碧玉製勾玉が出土した点は、やや特異な状況と言える。

遺跡名	所在地	出土遺構等	出土遺構の時期	原報告の記載・文献等
宮ノ前第 2 遺跡	高千穂町	12 号竪穴建物跡	弥生時代後期初頭～前葉	本報告のとおり。
平底第 2 遺跡	日之影町	1 号竪穴建物跡	弥生時代前期末～中期前葉	ヒスイ製の丸玉である。一部欠損が認められる。径 1.4 × 1.35cm・厚 0.7cm・重量 1.98g・孔径 0.2cm。宮崎県埋蔵文化財センター 2019: 第 13 図 15。
蓮ヶ池横穴墓群	宮崎市	46 号横穴墓	7 世紀前半	白っぽい部分の混じる薄青緑色不透明な硬玉製かと思われる玉である。自然石を利用したかのように歪な形である。穿孔は両方からなされたようである。玄室排土中採集とされ出土地点は不明。宮崎県総合博物館 1987: 第 47 図 1。藤木 2016 で天河石製と再評価された。

表 2 宮崎県域出土天河石製玉類一覧

#### 4 おわりに

今回、資料を調べるにあたり、新たな発見・気づきを得られ、有益なものとなった。これを機に、今後も未掲載資料等の図化や報告などの共有化を図り、資料のさまざまな活用につけていきたい。

#### 註

- (1) 平底第 2 遺跡例は、表 2 のとおり翡翠製とされてきたが、今回、再検討によりはじめて天河石製として位置づけている。今回報告の宮ノ前第 2 遺跡出土の天河石製平玉は「翡翠製垂玉」と記載されたこともあったが（藤木ほか 2009）、やはり、今回の再検討により天河石製とみなした。

(2) 古代歴史文化協議会により公開されている宮崎県域の古墳時代の玉製品の集成（古代歴史文化協議会（Web））を参照すると、宮崎県域における碧玉を用いた玉製品には管玉が多く知られ、勾玉は少ない。碧玉製勾玉の出土例は、六野原 14 号地下式横穴墓（国富町）・囲横穴墓（西都市）・持田古墳群（高鍋町）・狐塚古墳（日南市）等の墳墓出土品のほか、墳墓であるかよくわからない事例として、綾町尾立（東京国立博物館列品番号 J-8637、若山甲蔵寄贈）が挙げられている。

## 謝辞

本稿の執筆にあたり、福留康代・藤木聡の両氏には、遺物実測・文献収集・助言等で御協力いただきました。文末であります記して感謝を申し上げます。

## 引用・参考文献

古代歴史文化協議会 2018『玉 TAMA- 古代を彩る至宝 -』

古代歴史文化協議会「宮崎県玉類出土古墳・集落遺跡データ」（2024 年 1 月 19 日に確認）

[https://kodairekibunkyo.jp/data/tama\\_miyazaki/14\\_miyazaki\\_1.html](https://kodairekibunkyo.jp/data/tama_miyazaki/14_miyazaki_1.html) (Web)

長津宗重 2021「五ヶ瀬川流域における遺跡の動態」『宮崎県総合博物館研究紀要』第 41 輯、57～72 頁

橋本英俊・中井 泉・柳瀬和也 2014「宮崎県内出土のガラス玉の分析について (2)」『研究紀要』第 2 集、19～48 頁、宮崎県埋蔵文化財センター

藤木晶子・藤木 聡 2009「宮崎県域における縄文の玉・弥生の玉」『玉と王権』国際交流展図録、宮崎県立西都原考古博物館、8～15 頁

藤木 聡 2016「宮崎県の外来系玉類と東アジアにおける雁木玉」『玉から古代日韓交流を探る』第 2 回古代歴史文化協議会講演会資料、古代歴史文化協議会、25～28 頁

宮崎県教育委員会 1993『吾平第 2 遺跡 宮ノ前第 2 遺跡 城ノ平遺跡』国道 218 号線高千穂バイパス建設関係発掘調査報告書

宮崎県総合博物館 1987『陣内第 2 遺跡・蓮ヶ池横穴墓群 - 遺物編 -』埋蔵文化財調査研究報告 I

宮崎県埋蔵文化財センター 2003『布平遺跡・古城遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 74 集

宮崎県埋蔵文化財センター 2019『平底第 2 遺跡』宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書第 246 集

柳瀬和也・松崎真弓・澤村大地・橋本英俊・東憲章・永濱功治・中井 泉 2014「宮崎県・鹿児島県から出土した古代ガラスの考古化学的研究」『X 線分析の進歩』第 45 集、279 項～300 項

吉田東明・比佐陽一郎 2021「福岡県の天河石製玉類」『研究論集』46、九州歴史資料館、17～37 頁

## 図・写真・表出典

図 1: 地理院地図 / GSI Maps からダウンロードした地図に筆者追記

図 2: 筆者作成

写真 1: 筆者撮影

表 1・2: 筆者作成